

手話

心に届く。 Words to deliver to you.



わかりやすく書き言葉に変換

伝 えるための手段のひとつとして、聴覚障がいのある方に文字で伝えることを目的にした「要約筆記」という手法をご存知でしょうか。一般的に人が話す言葉は1分間で300字〜500字と言われており、文字で記述していく場合の文字数は1分間に50字程度、パソコンでタイピングしていく場合の文字数は1分間に80字程度が限度だと言われています。そのため、要約筆記者は



▲講演者が話す内容を要約しながらパソコンに打ち込み、サブスクリーンにその内容を映し出します。

単なる書き起こしではなく、不要な言葉を短くして話し言葉を書き言葉に変換していきます。要約筆記は、これまで講演会に聴覚障がい者が参加する際に聴覚障がい者が視覚を通じて伝えることができる手法として活用できる場面が増えていきます。



▲専用のソフトを使って話者を明確にしながら文字を打ち込んでいく要約筆記。

感染症により変わる生活

初 めて聴覚障がい者に接するとき、手話が使えなくてもはっきりとした口の形で文章や単語を短く切って伝えてみてください。聴覚障がいがある方は、話し手の口形、表情、文脈などから話を推測し、理解できる場合もあります。身振り手振りを加えるとさらに伝わりやすくなるかもしれません。しかし、「たばこ」と「たまご」など口の動きが似ている言葉や同音異義語は口の形だけでは区別がつかず、初めて聞く話や突然場面が変わると理解しづらくなるため、注意する必要があります。



▲手話サークルでも活動時はマスクではなく、マウスシールドやフェイスシールドを活用しています。

要約筆記を知ってほしい



要約筆記サークル **かっこう** 代表 萩 さゆりさん

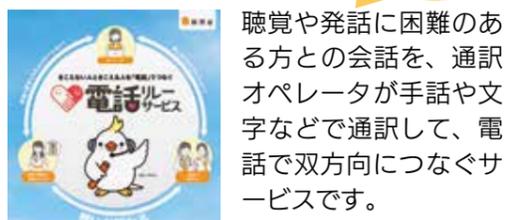
要約筆記は大人数に対しての情報保障だけでなく、病院受診や役場での手続きといった個人に対する支援も行えます。パソコンなどの機材がなくても「ノートテイク」という紙とペンを使った情報保障もできます。

外見からはわからない障がい

視 覚障がい者は周囲の安全を確認するために白杖を持ち、下肢に障がいがある方は車いすに乗っているなど外見で障がいの有無を判断することができません。しかし、一般的に聴覚障がい者は外見上、健常者と何ら変わりはありません。耳に補聴器を付けていたとしても補聴器の小型化が進み、目立つことはほとんどなく、よく目を凝らさなければ確認できない場合も多いです。このように外見のみで判断することが難しいことから、聴覚障がい者は第三者から障がいの有無

や程度を判別することが難しい「見えない障がい」の一種ともされています。もし、あなたの近くで想いを伝えられず困っている障がい者と思われる方がいたら——たとえ言っていないことや手話がわからなくても、聴覚障がい者が発する表現はきっとあなたの心に届くはず。相手が表現することをよく見て、伝えたいことを理解する姿勢を自分も示せば、お互いの歩み寄りできっとコミュニケーションがとれると思います。

令和3年 7月1日 START 電話リレーサービス



聴覚や発話に困難のある方との会話を、通訳オペレータが手話や文字などで通訳して、電話で双方向につなぐサービスです。

電話リレーサービス

あいさつだけでもできると嬉しい

最近マスクが妨げとなり、不自由に感じる場面が多く、マスクを取るようお願いしても不審な目で見られることもあります。私のように口元を見なければ伝わらない人がいることも理解してもらって、手話で簡単なあいさつだけでも皆さんできると嬉しいです。



菟野町心身障がい者福祉会 会長 森田 桂子さん

CHECK 3 AIで手話通訳



人工知能(AI)が画像認識技術を活用して指や腕などの動きを分析して手話を瞬時に日本語の文字に変換するシステムの開発が進められています。手話を日本語に変換する時間は約3秒ほどで、将来はスマートフォンなどを介して誰でも簡単に手話でコミュニケーションができる世界が訪れるかもしれません。



CHECK 4 聴覚障がい者のために

健康福祉課では手話奉仕員養成講座などを開講し、手話通訳者を志す方を支援しています。聴覚障がい、音声・言語機能障がいなどで身体障害者手帳をお持ちの方は手話通訳者や要約筆記奉仕員を派遣する制度があるのでご利用ください。

健康福祉課 社会福祉係 TEL 391-1123 FAX 394-3423



きっと **伝** わる お互いの気持ち。

「ありがとう」の手話を教えてくれた伊藤さんと森田さん。2人のようにお互いを理解する気持ちが大切です。